

質問1【全般】

質問1-1 大事故を起こした東電が原発稼働することについて

前回に東電に「原発ゼロ」の弊害があるかを問うたところ、<カーボンニュートラルのために原発活用が必要>との回答しか得られませんでした。昨夏と本年夏の猛暑も東電管内は原発ゼロで悠々と過ごせたとし、原発ゼロの弊害についても明確な回答をしてもらえませんでした。なぜですか？

福島第一原発事故を起こしその被害は百年以上先にまで及ぶと予想される中で、東電に原発稼働を許すことは、事件を犯した人に再び刃物を持たせるに等しいと思います。東電の皆さんはどう考えますか？

質問1-2 東電の責任と国と東電の役割について

東京電力ホールディングズの沿革は、<1883年(明治16年)に設立された東京電燈が始まりとなる。その後、国家総力戦体制に伴う大日本帝国による国策により、第二次世界大戦直前の1939年(昭和14年)4月、発電および送電設備が、半官半民の企業であった日本発送電の管轄となり、さらに太平洋戦争直前の1941年(昭和16年)8月には首都圏における送電事業が関東配電に移管させられた。>(ウィキペディア)とあります。今の東電は戦前の「電力国家管理」をどう評価していますか？

一方、3.11事故後に東電は国の出資を受け、主要株主は原子力損害賠償・廃炉等支援機構(54.75%)です。国は東電の経営にどの様に関与しているのですか？ 国から入っている取締役は誰で元の職場はどこですか？ 経産省ですか？ また、原子力発電は国策民営で推進されていますが、そのことについて東電の方々はどの様に考えているのですか？

質問1-3 放射性物質は拡散してはいけない

前回、核燃料サイクル破綻について尋ねたところ、「原子燃料サイクルを推進していくことに重要な意義がある」と答えられました。何が「重要な意義」なのか教えてください。

30年以上前に着工した六ヶ所再処理施設は完成時期の27回目の延期を決めました。民間企業ならば、とっくに断念している施設です。この施設が稼働すると期待する理由を教えてください。

質問1-4 原発はクリーンでもグリーンでもない、最大の環境破壊

温排水の放出について<建設時および運転開始後も継続して環境影響評価を実施>と回答されました。柏崎刈羽原発の「環境影響評価」をいつ実施したのですか、その結果と稼働後の実測はどうでしたか？ 原発稼働後の温排水と海水の温度差はどれだけでしたか？ 排水の放射性物質の濃度はどれだけだったのでしょうか？ 関係資料とともにお願いします。

質問1-5 原発コスト

3.11後に原発の安全対策費とともに発電単価が上がり、一方で再生可能エネルギーが広く普及して発電単価が下がっています。経産省が検討している英国RABモデルなどによる原発新增建設費の電気料金上乗せなどは、数年前に実施した電力自由化と発送電分離とに矛盾すると思いませんか？

質問2【放射能汚染の影響】

質問2-1 福島でがんが多発

前回に<福島県の胃がん罹患数が2011年以前に比べて2012年以降が多いことは、全国がん登録等のデータにて認識しております。>と回答され、その上で「福島県内外での疾病動向の把握に

関する調査研究」とUNSCEAR 報告書から「事故による放射線被ばくに直接起因すると思われるものではないと認識しております。」と回答されました。

これについて、週刊金曜日 9 月 27 日号で明石昇二郎さんが「福島県男性の胃がんは単調減少している」とした環境省研究調査に重大な疑問 福島県で 9 年連続「胃がんが有意に多発」を公表し、環境省調査研究の主任研究者祖父江研究班長と情報交換し、「祖父江研究班や国立がん研究センターは、追加登録で 16 年から 18 年の罹患数が増加していることに気づいていながら、全国がん登録制度の所管官庁である厚労省に対してきちんと報告していない」と指摘しています。「福島県で胃がん多発」の異変が続いたことは間違いないと思います。

さらに、福島現地の方々のお話でも、福島で高齢でがんで死んだ方が、一般に知られている様に高齢者のがん進行が遅いはずなのに反して、発見から亡くなるまでの期間が短いと指摘されていることもお伝えします。

311 事故を起こし今もイチエフで悪戦苦闘している東電はこれらについてどう対応しますか？

質問 2 - 2 NHK 第四の被ばく と 被害者裁判

〈NHKスペシャル 封じられた“第四の被曝(ひばく)”—なぜ夫は死んだのか—〉(9 月 15 日夜)をご覧になりましたか？

〈1958 年、海上保安庁の船「拓洋」と「さつま」の乗員 113 人が被ばく。その 1 年後、乗員の永野博吉さんが急性骨髄性白血病で命を落とした。妻の澄子さんは事件の実態を知らされずにその後の人生を過ごしてきた。1945 年、広島・長崎への原爆投下。1954 年のビキニ事件。それらに次ぐ“第四の被ばく”とも言える知られざる事件。その実態に独自取材で迫る。〉調査報道です。

米国と日本の政府による被ばく隠しは 1960 年の日米安保条約改定にまで影響したかも知れないのです。

東電さんに何か思い当たることはありませんか？

今、多くの 311 事故後の被ばく裁判が行われています。東電が訴えられている訴訟はいくつありますか？ 事故を起こした法人として真摯に訴訟に取り組むことを強く求めます。

質問 2 - 3 【被ばく労働】事故後の結果、猛暑の中でも防護服

前回にこの作業者の負傷とその後についての質問に「その後の状況については当社からの回答は差し控えさせていただいております」と回答されました。なぜ答えられないのですか？

簡単にその後の状況をお答え願います。

質問 3 【イチエフ汚染水対策】 汚染水海洋投棄（「海洋放出」）

質問 3 - 1 「ALPS 処理水海洋放出」が正当なら ND の扱いを変更するべき

何度も言います。放射能測定において ND (不検出)はゼロを意味せず検出限界値以下であることを示しているだけです。そのことを環境省も経産省も認めました。例えば昨年度の放出総量の次の表でプルトニウムなど多核種の上限值はいくらになりますか。計算して表をより正確にしてください。

また、今年度の各回の放出総量にも全核種の上限值を示してください。

これが科学的に正しい態度です。

1. ALPS処理水放出に伴う年間放出量（2023年度）



- 2023年度のALPS処理水放出（計4回）による、**トリチウムの年間放出量は4.5兆Bqであり、放出基準の22兆Bq未満を満足した。**
- 測定・評価対象核種（29核種）の放射能総量[Bq]は下表の通りであり、各回の測定・確認用タンク水において検出された核種について積算している。なお、各回と右告示濃度比の総和が1未満であることを確認している。

核種	放射能総量[Bq]	核種	放射能総量[Bq]	核種	放射能総量[Bq]
C-14	4.3E+08	Sb-125	2.2E+06	U-234	—*
Mn-54	—*	Te-125m	8.0E+05	U-238	—*
Fe-55	—*	I-129	6.4E+07	Np-237	—*
Co-60	9.8E+06	Cs-134	—*	Pu-238	—*
Ni-63	—*	Cs-137	1.4E+07	Pu-239	—*
Se-77	—*	Ce-144	—*	Pu-240	—*
Sr-90	5.9E+06	Pm-147	—*	Pu-241	—*
Y-90	5.9E+06	Sm-151	—*	Am-241	—*
Tc-97	3.2E+07	Eu-154	—*	Cm-244	—*
Ru-106	—*	Fu-155	—*		

3

質問 3 - 2 ALPS処理水を「安全と思われる濃度」まで薄めるのに必要な水の量は大量

月刊「化学」3月号に掲載された提言<「ALPS処理水」海洋放出の科学的根拠を問う>について、前々回と前回にこの提言に基づき、今東電が行っている「ALPS処理水」海洋放出が全く安全ではないと指摘しました。ところが、東電はこの学術論文に何ら反論せず、<計画通り安全な放出が行われ>たと言いつつするだけでした。長文の論文ゆえ再掲しませんが再度確認させてください。

この「化学」の提言に何ら反論できないということは、同提言の科学的正さを東電は認めるということですね？

質問 3 - 3 【水産資源保護法違反】 たれ流しは犯罪行為

「海洋放出」が水産資源保護法に違反していないことを誰も証明していません。東電は<水質汚濁防止法に基づく福島県条例の基準値を満足することを確認>と回答するのみ。私の質問は水産資源保護法を違反していないかを問うています。明確に回答願います。

また、9月末の中国・韓国との会合で<日中韓会合で処理水「核汚染水」放出のモニタリング拡充が確認された>そうですね。具体的にはどの様にモニタリングを拡充するのでしょうか？

質問 3 - 4 【事故炉の放射性物質の海外放出】

「事故炉の放射性物質」の海洋放出(海洋投棄)について、スリーマイル及びチェルノブイリではどう対応したと認識しているのですか？ デブリ取出しも十年以上かかって不可能！ そんな高濃度放射性物質に触れた汚染水を海洋投棄することが何故許されると考えるのですか？

質問 3 - 5【ALPS小委員会報告書の「検討結果」表（処分方法の得失表）】

前回尋ねた期間と費用についての見積もりと現実との離反について何ら答えずに、<丁寧にご説明刺せていただく取り組みを一つひとつ重ねてまいります。>との回答。言っていることとやっていることが余りに離反しています。もう一度尋ねます。期間と費用の離反の理由を説明してください。

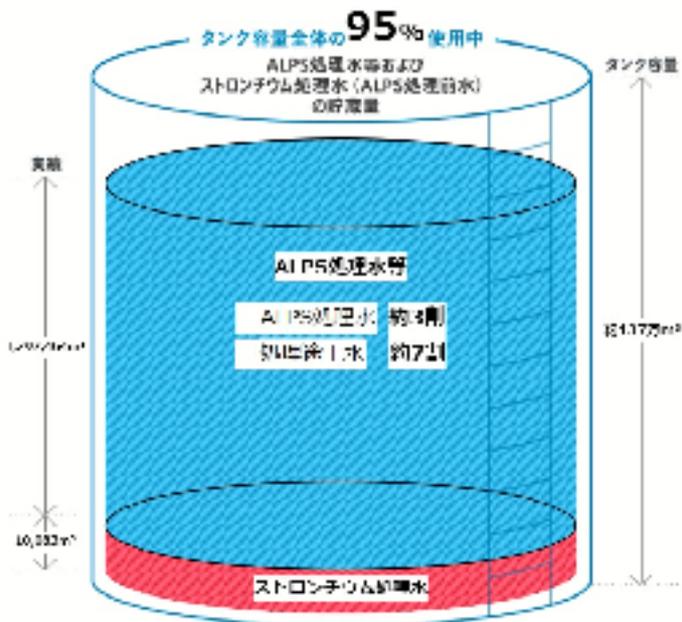
期間：91ヶ月（8年未満） => 30年以上

費用：34億円 => 1000億円以上？

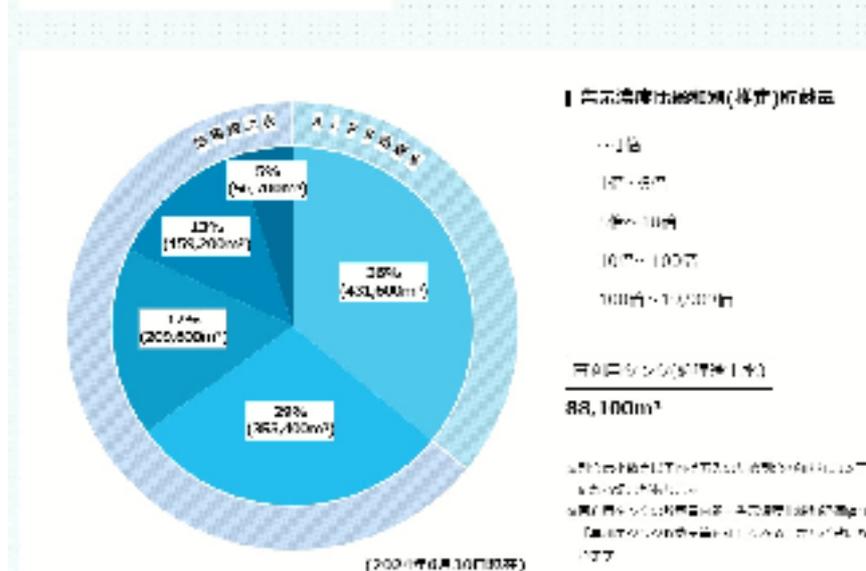
また、現在までにかかった費用の概算を回答願います。

質問 3 - 6 「海洋放出」の今後の予定

今公表されているタンク内の汚染水の状況を東電は次の様に発表しています。今後の見通しと今後の計画を説明願います。



ALPS処理水等の放射能濃度



質問 4 【廃炉ロードマップ】

質問 4 - 1 デブリ取出しについて

7月に続いて9月にもデブリ取出しでトラブル。テレビの報道番組で田中俊一元原子力規制委員長がデブリ取出しについて尋ねられて「あれはパフォーマンスですよ」と答えました。

やはりデブリ取出しは巨額の費用をかけたパフォーマンスですか？

パフォーマンスで失敗続きの東電に原発を動かす資格があると思いますか？

質問 4 - 2 廃炉ロードマップについて

一方、更田豊志前規制委員長(原子力損害賠償・廃炉等支援機構の上席技監、同機構の「燃料デブリ取り出し工法評価小委員会」(デブリ小委)の委員長)のインタビューで次のことが指摘されています。

- ・2051年までに廃止措置作業を完了するとしています。取り出した燃料デブリの県外処分も政府は約束しています。果たしてこれらの約束は現実的でしょうか。

- ・廃炉作業は8兆円に収まるのか？

これらについて、今の東電の見解をお聞かせ願います。

質問 5 【日本原電資金支援】

質問 5 - 1 日本原電への資金支援を止めて

日本原子力発電株式会社には、炉規法(核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律)に定められた基準「経理的基礎」がありません。

炉規法の第4条(指定の規準)と第14条(許可の基準)には「経理的基礎」が定められています。

ところが日本原電には、次の事実が示すように、「経理的基礎」が全くありません。

- 日本原電は、この13年半1kwも発電していない

- 日本原電は、収入源がない中で東電や中部電力など電力五社から毎年、一千億円規模の「基本料金」を受け取り、綱渡りの経営を続けている

- 東海第二の審査においては、「受電会社の資金的協力の下」、東京電力から1400億円、東北電力から約300億円(?)を東海第二発電所の安全性向上対策工事を進めてきたが、防潮堤工事に不

備が発覚した。

防潮堤に不備が無くとも日本原電に「経理的基礎」が無いことは明らか。さらに再度の防潮堤工事追加費用を誰が出すのでしょうか。

敦賀 2 号「不合格」は当然で廃炉にするべきだし、東海第二も直ちに「不合格、廃炉」とするべきです。何度も言います、東電は日本原電への資金支援をやめてください。

質問 6 能登半島地震と柏崎刈羽原発

2024 年元日からの能登半島地震から 10 カ月が経過しました。

質問 6 - 1 柏崎刈羽：変動地形学の尊重、地震対策の再評価、活断層調査を

前回の質問に対して、文献調査・外部機関調査と評価結果・詳細な地質調査・活断層の抽出・敷地への影響などを考慮して、活断層評価・地震動評価を実施している、と回答され、かつ今回の能登半島地震による新たな知見が得られれば、その内容を踏まえ、必要に応じて評価してまいります。>と回答されました。8 月 28 日の原子力規制委員会定例会議と 9 月 3 日の技術情報検討会で自然ハザードに関する新たな知見が確認されました。柏崎刈羽に関係する知見もあったと考えます。どう受けとめましたか？ また、11 月初旬に長野で日本活断層学会が開催されます。これにも注目するべきと考えますが如何ですか？

質問 6 - 2 避難計画が実効性無いのに柏崎刈羽を稼働するな

避難計画に実効性がないことは明らか、住民の理解無く柏崎刈羽 7 号機を再稼働しないでいただきたい、との質問にく実効性を評価する立場にない、協力協定に基づきより避難計画の実効性を高めるため、事業者として最大の支援を行ってまいります>と回答されました。IAEA でさえ定めた深層防護第五層を満たす努力を事業者がするのは当然だし、裁判で東海第二を止めている事実を觀ても実効性ある避難計画が必要なことは明らかです。実効性無ければ動かさないと約束してください。

質問 6 - 3 花角英世新潟県知事の「三つの論点」

花角知事が 9 月 11 日に、再稼働の必要性・安全性・東電への信頼性の「三つの論点」を掲げました。私がこれまで縷々述べてきた様に、どの論点も東電は満たしていないと考えます。東電は「三つの論点」についてどう評価していますか？

質問 6 - 4 使用済み核燃料の青森搬出について

この会で何度も止めるように訴え理解されたと考えていたのに、9 月 25 日に青森への輸送を強行しました。なぜどの様に実施したか説明願います。特に青森に核燃料を押しつけることを東電はどう考えているのですか？

質問 6 - 5 使用済み核燃料を増やさない

行き場が無い危険な使用済み核燃料は、資源では全くなく、核のゴミ(死の灰)です。また稼働している原発もできたての使用済み核燃料も格好の地雷源になります。今以上に増やしては行けません。柏崎刈羽原発を稼働しないでいただきたい。

以上